ISSN 2186-5647

5-22

みらいの福祉施設建築プロジェクトからみる施設の地域開放への計画に関する研究

－助成決定事業の事業者へのヒアリングを通して－

日大生産工(院) ○菅澤 梨乃
日大生産工 山岸 輝樹

1. はじめに

1970年代の施設の社会化そして2000年の社会福祉基礎構造改革により社会福祉法や介護保険法改正により社会福祉サービスのシステムが大転換起を迎える. 地域から孤立し, 閉鎖された施設型が問題視され始め近年では, 少子高齢化や多様性の尊重, コミュニティの希薄化といった社会背景の変化に伴い, 施設の多機能化とともに地域福祉を担う拠点としての役割が求められるようになってきた. しかし, 福祉施設をどの様に地域に開いていくかについては答えが定まっていない.

本研究では, 「みらいの福祉施設建築プロジェクト」で助成が決定した事業を調査対象とし, 今までになかった施設の形を作っていこうとする際にどのようなものを実現したいと考え, どのようすれば実現できるのかを明らかにすることで新しい施設の地域への開き方に関する知見を得ることを目的とする.

2. 研究方法

2-1. 調査対象施設概要

「みらいの福祉施設建築プロジェクト」は, 日本財団が2021年に開始した福祉施設のアップデートと今後の地域社会づくりのサポートのために日本国内にて法人格を取得している事業実施団体と設計者の協働による地域に開かれた建築事業プランを募集し, 採択決定事業に助成金を給付する助成プログラムである(表1).

2-2. 調査対象施設概要

本研究では, 「みらいの福祉施設建築プロジェクト2021」助成決定事業6事業のうち調査協力を得られた3事業(表2)の事業者にヒアリングを行った. ヒアリングはあらかじめヒアリング内容を項目化し（表3), ヒアリングの中で掘り下げていく半構造化インタビューを行った.

表1 みらいの福祉施設建築プロジェクト概要

主催	公益財団法人 日本財団
開催趣旨	地域社会に貢献し、地域社会から愛され、地域福祉の拠点となる社会福祉施設をめざして、事業実施団体と設計者の協働による建築デザイン提案を含む建築関連助成事業を募集する、助成プログラムである。
助成額	● 1 事業あたり上限額……3 億円 ● 助成件数（目安）……10 件程度（申請の状況による。全体の予算額は非公表） ● 事業費総額に対する最大補助率……100%
助成対象	● 対象となる団体 日本国内にて次の法人格を取得している団体……一般財団法人、一般社団法人、公益財団法人、公益社団法人、社会福祉法人、NPO 法人（特定非営利活動法人）、医療法人 ● 対象となる事業 福祉事業（注）を行う施設や事業所の建築関連事業（新築／増築／改修／改造／外構工事）
申請条件	●事業実施団体と設計者が協働すること ●本プロジェクトの趣旨に沿ったものであること ●募集要項の記載内容を遵守すること
対象経費	(1) 対象となる経費 ・設計費 (基本設計含む) ・工事監理費 ・建築工事費 (外構工事含む) ・施設機能に関連する機器 ・備品購入費用 (概ね単価 5 万円以上のもの) (2) 対象とならない経費 ・土地・建物の購入費用 ・土地・建物の賃料 ・土地の造成に係る費用 ・施設の耐震診断に係る費用・旧施設の撤去費用 ・事業のコンサルテーションや書類作成を外注する費用 ・建替え等にあたり一時的に利用するための仮設建物に係る費用または賃貸料等・租税公課 ・その他申請事業との関連性が薄い費用
申請件数	●472 事業
助成決定事業	●6 事業
審査員	●審査員長 ・工藤和美（建築家 シーラカンス K&H 東洋大学 教授） ●委 員 ・北川聡子（社会福祉法人麦の子会常務理事・総合施設長） ・竹宮健司（東京都立大学都市環境学部建築学科 教授） ・塚本由晴 (建築家 アトリエ・ワン 東京工業大学大学院 教授) ・成瀬友梨 (建築家 成瀬・猪熊建築設計事務所) ・前田 晃 (日本財団 専務理事) ・森下静香（社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job! センター センター長)

Research on facility planning that opens to the community for the "Mirai no Fukushi Shisutemu Kenchiku Project" grant project － Through Interviews with the Project Proponents of the Projects for which Grants have been Awarded －

Rino SUGASAWA and Teruki YAMAGISHI

3.　地域に開かれる福祉施設の事業者の取り組み

3-1. 事業者が目指す施設・サービス像について

それぞれの施設へのヒアリング回答(表4)から共通し見られる内容については赤で示し,特徴的な回答を緑で示した.

質問①では,「利用者たちがあたりまえに地域に溶け込む」といったニュアンスの回答が3施設共通している.

また,「ボナプール楽生園」「あるき出す」ら就労支援B型(以下「B型」)の施設は質問②の回答から従来施設の閉鎖的であった面を問題視しており,施設を閉鎖的にしている必要はそもそもないと事業者たちは考えており,質問①から存在を知ってもらい,理解してもらう場として地域に施設を開放していることがわかる.

「BURANOYAMA」では,質問②の回答のように「病院のような空気感」を問題視しており,質問①の回答では「カフェのようなワクワクする感覚」を目指していた.医療的ケアを必要とする子供たちが地域社会に受け入れられるよう理解をしてもらうと同時に,母親や家族にとっても病院ではない雰囲気でまちの中での居場所となるようなとなるよう地域に開放させている.

利用者の特性によって,地域と利用者の関係や施設の開放度は異なってくるが,3施設とも地域に受け入れられる環境・地域づくりをしようとしていることが共通している.

表 2　対象施設の概要

	事業者①	事業者②	事業者③
施設名	「ボナプール楽生苑」	「あるき出す」	「BURANO OYAMA」
みらいの福祉施設建築プロジェクト時作品名	体験型福祉施設「ボナプール楽生苑」	集落に繰りだす福祉溶けこむ施設	BURANOOYAMA 医療的ケアが必要な子どもたちと家族の欲張り拠点
施設サービス	就労継続支援 B 型	就労継続支援 B 型	日中一時支援 放課後デイサービス 児童発達支援
事業実施団体	社会福祉法人 新生福祉会	特定非営利活動法人縁活	一般社団法人 Burano
設計者	株式会社 伊東豊雄建築設計事務所	b.i.n 木村敏建築設計事務所	NIDO 一級建築士事務所
設備場所	広島県尾道市	滋賀県栗東市	栃木県小山市
用途地域	市街化調整区域	第一種住居地域	市街化調整区域
新築 / 転用	新築	新築	転用
助成金額	300,000,000 円	52,510,000 円	222,390,000 円
ヒアリング日程	2023/9/11	2023/9/12	2023/9/29
方法	対面	対面	zoom

表 3 ヒアリング内容

①目指した施設はどのようなものか。 (実現したかった施設・サービス像、空間的なイメージ)
②従来の施設のあり方ではなぜよくないのか。 従来のものと比較してどう良くなったか。
③どうすればそれが実現できるのか。 (空間的な計画方法、サービスとしての方法)
④従来の閉鎖的な福祉施設の形と異なり、利用者の行動がより自由になることが予想される。職員の見守りはどのような方法で行われる予定であるか。
⑤施設を地域に開放することで、考えられるリスクはどのようなものがあるか。どう対処していくのか。

表4　事業者が目指す施設・サービス像について

	「ボナプール楽生苑」	「あるき出す」	「BURANO OYAMA」
質問① 目指した施設はどのようなものか。 (実現したかった施設・サービス像、空間的なイメージ)	・地域の人とつながる第一の目標 ・障害者が住みやすい、暮らしやすい ・知ってもらい「障害」という壁を取り払う ・働いている人実は障害者なんだよ。 ・働いているところを見てもらい、存在を知ってもらう事で地域に認めてもらいやすくする。 ・施設での就労や利用そのものが地域社会の課題解決になる	・福祉サービスが出来る前は普通に障害者がまちで生活していたのではないか。昔あったであろう福祉を取り戻す。 ・障害者の役割作り。 ・障害者が当たり前にいていい地域づくり。 ・障害者がありがとうと言われる。受けてから与える側に。いてくれないと困る存在に。 ・ここを拠点に地域を活性化していく。	・不可なく自然と地域に出て行ってつながって交流が重なっていく。 ・気軽に施設に来てもらうようになることで ・医療的ケア児が当たり前に存在している。 ・地域の人にとっても障害を持つ子供たちが地域にいることが自然と理解できていく ・カフェに行く、お出かけするような感覚で来れるよう場所
質問② 従来の施設のあり方ではなぜよくないのか。 従来のものと比較してどう良くなったか。	・閉鎖的である。 ・透明性がなかった。 ・なかなか思うように地域に出ていくことができていなかった。 ・就労継続支援 B 型での給料の低さ	・従来の施設は閉鎖的である。 ・福祉サービスが地域から障害者を剥がし、福祉サービスが障害者が当たり前にいた暮らしを忘れさせた	・従来の施設は病院寄りの施設が多い。 医療依存度が高い子供のため、衛生面に対する比重が大きくなる。 ・カフェにいくようなワクワク感・お家にいるようなゆったり感はない。

3-2. 施設を地域に開放していくための事業者の地域への仕掛けについて

質問③の回答では3施設とも行政や商工会,町内会などアプローチしていく方法はそれぞれ異なるが,事業所だけの施設づくりではなく,まちと協力し共にまちづくりを行いながら施設を運営している.

B 型の 2 施設では,施設独自のアプローチの方法がありながらも障害者の活動自体が地域活性化につながっている.障害者・施設が地域を盛り上げていく一員となり,地域に施設を受け入れてもらうような工夫を仕掛けている.

「BURANO OYAMA」では町内会や行政区と繋がることで,地域に施設を発信していく仕掛けを行なっている.

また,敷地内で地元企業とのイベントの開催をしていくという仕掛けも行っている.施設利用者の活動自体が地域に貢献していく形ではないのが他2施設とは異なる.医療的ケアを必要としている子供達の方が障害者よりも地域へ出ていくことにおいて壁が高いため,特性に合った地域への仕掛けが行われている.

3-3. 地域に開かれる施設の管理について

質問④の回答から,3施設とも見守りの形がきちんと想定されている.

「ボナプール楽生園」では,施設内で行動を見守りながらも利用者に行動の制限はなく自由度が高い.

「あるき出す」は農業で活動を行っているため,地域に繰り出し活動範囲が他と比べ広くなっている.職員も共に活動をしながらの見守りが行われている.

「BURANO OYAMA」では一対一で見守りをしていく想定であった.質問⑤の「むしろ関わらせることの方が難しそうという回答」から,施設を地域に開放させていくことについてリスクを感じておらす,施設の地域開放についての管理面に関しては問題視していないことがわかる.

地域からの介入にそれほど問題を感じていないというような3施設の回答から現実的な施設とまちの距離感が感じられる.

表5 事業者の地域への仕掛け・施設の管理について

	「ボナプール楽生苑」	「あるき出す」	「BURANO OYAMA」
質問③ どうすればそれが実現できるのか。 (空間的な計画方法、サービスの方法)	・障害福祉の課題と地域社会の課題を解決 ・地域への聞き込み ・観光客の施設付近店舗への勧誘。共に地域おこし。(客室にお風呂を設けず、近くのレモン風呂を宣伝。飲食店などの割引) ・商工会、商店街の人や農家の人と一緒にやっていく上で地域に出ていく	・行政,観光事業など地域を面で活動している人を巻き込む。地域協会を作る。 ・外堀から埋めていく。 ・就労支援 B 型の活動の前にボランティアから始め、んだん地域の人からコミュニケーションが生まれる。	・地元企業とのイベントを多く開催。 ・いろいろな人たちと繋がって仕掛ける。 ・田舎は情報発信が回覧板や連絡網などですぐ情報が繋がる。 ・町内会行政区で情報が広がるルートがあり、住宅街と繋がることで情報を流し施設を知ってもらう。
質問④ 職員の管理はどのような方法で行われる予定であるか。	・自立度の高い方には休憩時間を伝え、休憩時間中の行動範囲を敷地内に限定する。 ・難しい方については休憩時間に支援員が目の届く範囲で見守りをすることを想定 ・休憩時間については一般の方と利用者が触れ合える機会と考えているので、一定程度のリスク管理をしつつの運営をしていく。	・農園などでの作業は職員が共に作業・活動をしながら見守る形。 ・施設内にも施設職員がいるため、すぐに対応ができる。	・子供たちは一対一で見ているので必ずその子のそばには必ず看護婦、理学用法師、介護士がいるという状態がある。 ・誰も知らない中でその子だけがいて急な接触があるということは起こらない。 ・人がいる分、人の部分で緩衝材になる。
質問⑤ 施設を地域に開放することで、考えられるリスクはどのようなものがあるか。どう対処していくのか。	・オープンな施設なので、利用者にとって一般の方に見られながらの作業になるため、大小ストレスがある方がおられると想定している。 ・その点、多目的室や個別にゆっくりできる環境の相談室を活用してストレス軽減に努めていこうと思う。	・地域からの理解を得るまでは、地域での障害者の活動や行動が理解できずに距離感が生まれてきてしまうため、クレームや、通報が合ったりしてしまうリスクはある。 活動を通し、地域に知ってもらうことによって解決する。	・段階的に層が分かれている分子供達の一番安心していられる場所は明確に把握しており、外から入ってきても段階的にわかっているから無理な接点にならない。 ・むしろ関わることのリスクより関わりを待たせられないことの方が難しそう。医療的ケア児と関わることが怖くなってしまう人がいるためこの辺の接続を作る方が大変そう。施設内・芝生スペースで子供たちが紛れていて顔馴染みになっていく延長線に個々のつながりが出てくるのではないか。

4. キーワードによる分類

4-1. 事業者が考える施設のあり方についての考察

3施設の事業者のヒアリング及び調査結果からキーワードを摘出し,表にまとめた(表6).キーワードを「施設・サービスについて」「周辺環境・地域住民との関係について」の2項目について抽出し,色分けを行った.赤で示した語群が共通して見られる語群とし,緑を注目すべきキーワードとして表にまとめた.

「施設・サービスについて」では,3施設に共通して「地域の居場所」というキーワードが共通して見られる.また,「ホテル感」「カフェ感」「オシャレな感覚」「家のようなゆったり感」などのキーワードから施設感を遠ざけ,よりくつろげる,アットホームな雰囲気を作り出そうとしていることがわかる.

4-2. 周辺環境と敷地についての分析

「周辺環境・地域住民との関係について」からは,「ボナプール楽生園」と「あるき出す」は敷地が地域住民にとって思い入れのある土地であることから事業者が施設を地域に溶け込みやすい場所に配置しようとしていることが読み取れる.「BURANO OYAMA」では,市街化調整区域と第一種住居地域の境界ラインが合わさる所で選定している.地域の特性や住民の特徴に配慮し,地域社会に適合する施設を提供する意向を示している.敷地の選定において,地域との調和を大切にし,地域への貢献を考えている可能性が高い.

また,「BURANO OYAMA」では地域の規模感を大きすぎない地域とすることで,「あるき出す」では古民家改修を低予算助成金額も少なくしていることで新しい施設像としてモデルにしやすい敷地を選定している.

5. 結論

以上明らかとなったことを概念図に示す(図1).事業者の様々な思案から,事業者の作り出したい新しい福祉施設像や理念また,施設を地域へ溶け込ませるための仕掛けが明らかになった.しかし,ハード面での行われている試明けを確認していくとともに,事業者の考える理念をどのように建築的に実現していくのかについて計画的工夫を明らかにしていく必要があると考えるため,今後は,設計者にもヒアリングを実施していく.

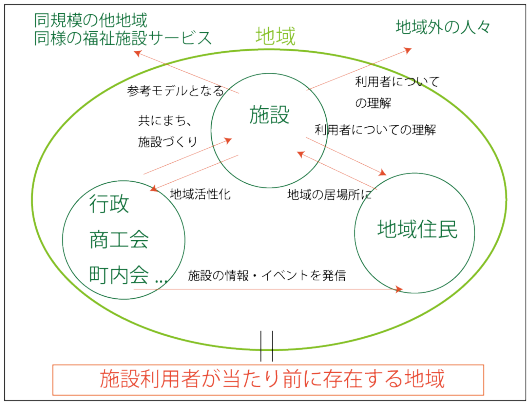

図 1 概念図

参考文献

1) 日本財団:日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクト2021(2021) <https://fukushi-kenchiku.jp/archive/2021/ >2023/10/11

2) 一般社団法人 日本建築学会 編 「ケア空間の設計手法 地域に開く 子ども・高齢者・障がい者福祉施設」学芸出版社 (2023) p8-11

3) 芳村 帆夏 河合 瑛大 加藤 研 「木質空間のレディースクリニックにおける維持管理に関するヒアリング調査」日本建築学界会学術講演概要集(東海) 2021 p717-718

表 6 キーワード分類表

	ボナプール楽生苑	あるき出す	BURANO OYAMA
施設・サービスについて	・社会インフラとしての福祉施設 ・地域の人々の居場所 ・多様性を認め合える地域 ・ホテル感 ・オシャレ	・お互い様 ・お金にこだわらない ・寛容な「家」 ・物々交換から産まれる輪 ・地域従民の居場所	・安心安全 ・ゆったり過ごせる ・余地を作る ・オールシーズン外出 ・地域の居場所 ・ワクワクする ・カフェにいくような ・お家にいるような ・オシャレな感覚 ・福祉の優しいイメージと違う ・母親兄弟家族を支援
周辺環境・地域住民との関係について	・プール跡地 ・地域の思い入れのある場 ・前向きな地域性 ・観光地	・歴史がある古民家 ・高齢者が多い ・中山間地域 ・地域の人から認められている建物 ・冠婚葬祭の中心 ・利益を得ようとしない地域性	・市街化調整区域と第一種住居地域の境界ライン ・県のなかで二番目の人口規模である ・目の前に約 800 世帯の住宅が連なる ・付近に商店街